

令和3年度学校自己評価システムシート（県立蕨高等学校）

目指す学校像	「生徒の進路希望を実現する文武両道の進学校」 ～グローバルな視点を持ち次世代のリーダーとして活躍できる人を育てる～
--------	--

重点目標	1 生徒の進路希望の実現に向け、生徒に高い志を持たせ、全教職員が授業改善に取り組む。 2 社会のリーダーとして活躍できるように、自主・自律の精神を持ち合わせた生徒を育成する。 3 開かれた学校づくりを推進するとともに、蕨高校の魅力が伝わるように情報発信する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	4名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	5名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標					年度評価(2月1日現在)		実施日 令和4年2月4日	
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領を踏まえ「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業研究に取り組んだ。各教科で考える力・伝える力を向上させる必要がある。 教員同士による授業見学や研究協議を行った。授業公開の方法を検討し、学び合いを継続する。 3年間を見通した組織的な進路指導を継続する。 外部研修会に参加し、全職員で情報共有を図ることができた。今後も継続していく必要がある。 新型コロナウイルス対策を踏まえた補講や校内 BYOD の活用について検討する。 	<p>生徒の考える力・伝える力を意識した授業改善を推進する。</p> <p>外部情報など多岐に渡る進路情報を全職員で共有し、生徒に「アップ」全体を意識させる教科指導・進路指導の充実を図る。</p>	<p>①授業研究を行い、「アクティブ・ラーニング」を通して生徒の考える力・伝える力を向上させる。(通年)</p> <p>②授業公開期間を設定し、教員相互の学び合いを実施する。(年2回)</p> <p>①外部の視察や研修会等(教科指導・進路指導)へ積極的に参加し、全職員で情報を共有する。(通年)</p> <p>②生徒が第一志望を考え、それを実現させるための進路先研究を組織的に支援する。(通年)</p> <p>②難関大学入試に対応した外部研修に参加し、授業や補講に役立てる。(通年)</p> <p>③オンライン補講を継続・検証し、校内 BYOD の活用をする。(通年)</p>	<p>①生徒の考える力・伝える力の向上を意識した授業研究を行い、授業を工夫・展開したか。</p> <p>②学び合いを通して授業研究を行い、協議を踏まえた授業を実施したか。</p> <p>①外部研修に教員が参加し、情報を各教科・各学年で共有し協議、活用できたか。</p> <p>②難関大学等の入試に対応した授業、補講を行えたか。</p> <p>②生徒が第一志望の進路実現ができるように外部模試を効果的に活用できたか。</p> <p>②Google classroomのガイダンスを実施したか。(年度当初)</p> <p>③校内 BYOD を活用するためのスキルを身につけたか。</p>	<p>新教育課程実施に向け授業改善を行った。</p> <p>①生徒の考えをアウトプットする時間を意識し工夫を凝らした授業を実施した。</p> <p>②学びあい週間を9月、11月の2回実施し、期間中に研究授業を行った。</p> <p>外部研修会等をオンライン活用した。</p> <p>①外部研修会に夏期・秋期で27名、冬期で29名参加した。内容を各教科で共有した。</p> <p>②難関大学等の入試を意識した授業を展開した。また、平常補講23講座、夏期進学補講64講座、参加者数は延3092名だった。(+1007名)</p> <p>③4月当初にガイダンスを実施。アンケートや課題の連絡等に活用した。</p> <p>③分散登校で双方向のオンライン授業を全職員で取り組み、スキルアップにつなげた。</p>	A	<p>①新教育課程実施に向けて授業改善を継続していく必要がある。</p> <p>②研究授業を組み込んで実施した。参加者数を増やす方法が課題である。</p> <p>①外部研修会に参加しやすい環境ができている。来年度も継続していく。</p> <p>②通常補講、夏期補講の充実を継続する。</p> <p>③Google classroom を効果的に活用できた。さらに活用できるように職員研修会等の実施していく必要がある。</p> <p>③双方向のオンライン授業で職員のスキルが向上した。次年度以降、状況に応じて活用していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学びあい週間、外部研修会の内容をレポート等で情報共有したことが良いと思う。授業力向上につなげてほしい。 オンライン授業を柔軟に受けられるよう検討してほしい。 新学習指導要領の実施に向けて、授業内容の充実を図るとともに観点別評価の研究を進めてほしい。 中学で貸与しているタブレットはそれぞれ種類も異なり、学んできた内容も異なる。高校でどのように活用するか、入念な準備が必要。 classroom が授業中に活用されて良かった。 対面授業の良さもある。ICT と対面授業とのバランスが重要。
2	<ul style="list-style-type: none"> 文武両道の進学校の意識づけはできている。生徒が自身の管理を行い、主体性が最大限伸びるような指導を行う必要がある。 生徒実態調査において、授業時間外の学習時間を2時間以上と回答している生徒が約40%だった。 新型コロナウイルスによる制限がある中で部活動を活発に行うことができた。制限下における学校行事、効果的・効率的な部活動の運営が必要である。 自転車マナーの向上に努めている。生徒の安全、命を守るために全職員でマナーに取り組むとともに外部機関との連携を強化する。 海外短期派遣事業等が中止となる中で、国際交流活動を工夫して継続する必要がある。普通科、外国語科を問わず生徒の意欲・関心を喚起するように企画、実施することが求められる。 	<p>リーダーを意識した文武両道の実現を体現する生徒を育成する。</p> <p>規範意識を持ち、自律する生徒を育成する。</p> <p>グローバル社会に主体的に取り組む生徒を育成する。</p>	<p>①隙間時間の活用を生徒に意識させ、生徒がタイムマネジメント能力を向上し、学習時間の増加につなげる。(前年比)</p> <p>②新型コロナウイルスによる制限下での学校行事や効果的・効率的な部活動を通じてエンパワーメントを図ることで生徒が充実感を得る。(通年)</p> <p>①自転車マナーアップを推進し、登下校中の事故ゼロを目指す。(通年)</p> <p>②生徒自ら登下校指導に参加することで、全校生徒の自律を推進する。(通年)</p> <p>①オンライン交流会を実施するとともに各種国際交流活動を工夫、活性化する。</p> <p>②国際交流活動等に意欲、意識の高い生徒が学科を問わず参加する。(通年)</p>	<p>①生徒が自分自身のタイムマネジメントを実践することで生徒実態調査の授業以外の学習時間2時間以上、休日の家庭学習時間4時間以上と回答する生徒の割合(40%以上)。</p> <p>②生徒実態調査で文武両道の実現割合(40%以上)、学校生活が充実している生徒の割合(90%以上)。</p> <p>①自転車事故件数の減少(前年比)及び外部機関との連携事業を実施したか。</p> <p>②登下校時のマナー向上活動の実施状況。</p> <p>①国際交流行事及び国際交流活動参加者数を増やせたか。(400名以上)</p> <p>②外国語科独自の活動を広く周知し、学科を問わず参加しやすい環境を創出できたか。</p>	<p>生徒が目指す文武両道の実現を支援した。</p> <p>①平日の学習時間2時間以上43.6%、休日の家庭学習時間4時間以上38.6%だった。</p> <p>②文武両道(Wの挑戦)の実現割合は37.3%、学校生活が充実している生徒の割合は84.4%だった。</p> <p>蕨警察署や蕨市消防署等と連携した。</p> <p>①自転車事故件数は3件、昨年度より3件減少した。</p> <p>②生徒と近隣住民の安全を意識し、毎朝の登校指導を行った。</p> <p>グローバル化を意識した企画を実施した。</p> <p>①行事等が中止になったが延べ472名の生徒が参加した。オランダ大使館から講師を招くなど新たな取組を行った。その他、オンライン等を活用してオーストラリア等と交流した。</p> <p>②普通科の生徒にも積極的に周知した。</p>	B	<p>①家庭学習の定着に向けて生徒が自学できるように支援していく必要がある。</p> <p>①タイムマネジメントできるように支援を継続する。</p> <p>②限られた条件の中でより効果的な部活動が実践できるように支援を継続する。</p> <p>①来年度も外部との連携を密に、交通事故ゼロを目指す。</p> <p>②登校指導を継続し、安全を第一にした働きかけを生徒に実施する。</p> <p>①制約がある中で最大限の工夫をし、海外を意識した事業を実践した。来年度も継続する。</p> <p>②普通科の生徒がストリーチコンテストの代表になるなど、普通科の生徒も積極的に参加できる取組を拡充する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の時間が増えたのはコロナ禍で自由な時間が増えたことが影響している。 予習をすると授業の理解も深まる。加えて、復習時間をバランスよく確保してほしい。 予習・復習の時間以外に受験勉強の時間も確保が必要。 学校行事は生徒の生活において切り替える場面と直結している。感染防止を徹底しながら可能な限り学校行事を充実させてほしい。 学校行事や部活動が制限される中、可能な範囲で取り組むことができた。来年度もお願いしたい。 教職員が登校指導をしてくれていてとても安心して登校できている。 オランダ大使館など、新たな試みができてよかった。生徒に様々な視点を身に付けてほしい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、学校公開、ミニ学校説明会、を実施した。説明会では代表生徒、生徒会役員や放送委員の生徒が活躍した。今年度も継続していく。 令和2年度は小学校との交流事業は中止となった。新型コロナウイルスによる制限下での交流方法を検討していく必要がある。 学校ホームページは積極的に情報更新し、アクセス数が前年比の2倍強だった。今年度も積極的に情報発信していく。 	<p>生徒が蕨高校の魅力伝える担い手となり、保護者や学校とワンチームとなって開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①生徒の活動が中学生や保護者等に見える学校説明会等を実施する。(通年)</p> <p>②新型コロナウイルスによる制限下で実現可能な内容で蕨市内小学校との交流を行う。(9～11月)</p> <p>②地域施設を積極的に活用し生徒の活動を公開する地域の行事に生徒の参加を推進する。</p> <p>③学校ホームページを積極的に更新して情報をタイムリーに発信する。</p>	<p>①生徒の協力者数、生徒の活躍する場面を増やせたか。(前年比)</p> <p>②交流事業参加者数及び地域の行事への参加内容を増やせたか。(前年比)</p> <p>②蕨市内の公共施設を活用して生徒の活動を地域に知らせたか。</p> <p>③学校ホームページへの更新件数とアクセス数を増やせたか。(前年比)</p>	<p>生徒の活躍をとおりて学校の取組をPRした。</p> <p>①学校行事や学校説明会等での受付、説明など生徒の活躍の場を創出した。</p> <p>②行事の中止により、参加人数は増やせなかった。市民音楽祭やスポーツイベントなどに部活動の生徒が参加した。</p> <p>②蕨市内の小学校、蕨市民会館、体育館等を部活動等で活用し、地域連携を深めた。</p> <p>③学校ホームページの部活動のページを積極的に更新した。トップページを67回更新した。</p>	A	<p>①次年度も新型コロナウイルスの状況を見極め実施する。引き続き、学校説明会で生徒の活躍の場を創出する。</p> <p>②小学校との交流時事業の再開に向けて準備をする。</p> <p>②蕨市と連携して参加できる事業を継続する。</p> <p>③引き続き、学校ホームページで情報発信をして地域に根差した開かれた学校づくりを進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の姿が見えることで、学校の様子や指導の様子がうかがえる。学校説明会など、生徒が活躍する姿をもっとPRしたらどうか。 地域との交流はコロナ禍で難しいと思うが、安全にできる方法を模索してほしい。 学校ホームページを積極的に更新している。多方面への情報発信を継続してほしい。 保護者との情報共有は重要。定期的な情報を提供してほしい。